

## 5. 工事中

### (1) 工事中の交通への影響

① 工事車両による世田谷通りなどの渋滞への懸念

② 工事期間中の生活道路機能の確保への懸念

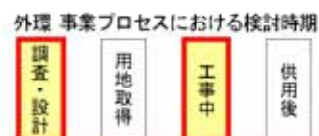
○これまでに頂いた意見

- 今後の設計や排気ガス対策、工事中の対策などに関する住民の意見を十分に反映させて欲しい。
- 子供の通学時の影響を考え、通学時間の工事車両の出入り(通学路への)等が絶対ないようにしてほしい。

(国)

➤ 東名ジャンクションに係る工事用車両については、東名高速に直接乗り入れできるようにし、世田谷通りや多摩堤通りなどの地域の一般道を極力利用しない計画とします。また、一般道を利用する場合には、工事用車両の台数、運行ルート、運行時間等について地域のみなさまへ説明するとともに、意見を聴きながら周辺地域への影響が小さくなるよう努めます。

➤ 工事中に分断が生じる道路については、切り回し道路の設置等により必要な機能を工事前までに確保します。また、切り回し等の対策の具体化にあたっては、地域のみなさまの意見を聴きながら対応します。



(2) 工事中の環境への影響

① 工事に伴う騒音・振動、大気質等環境への影響についての懸念

○これまでに頂いた意見

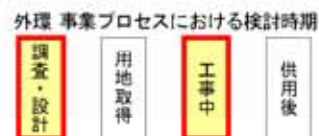
- 今後の設計や排気ガス対策、工事中の対策などに関する住民の意見を十分に反映させて欲しい。
- 野川の湧水への影響が心配である。工事によりどのように変化するのかわかり調べてほしい。
- 実際に工事が始まる前に、近隣の建物及び空気環境及び騒音等を調査してもらいたい。

(国)

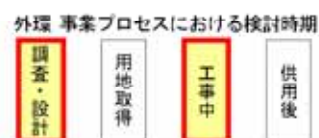
➤ 環境への影響については、環境影響評価法に基づき、事業特性や地域特性を勘案のうえ、環境影響評価を適切に実施し、工事の実施における建設機械の稼働及び工事用車両の走行に係る大気質(二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉塵等)、騒音、振動について予測・評価した結果、整合を図るべき基準等を達成すると考えています。

➤ 工事の実施にあたっては、環境保全措置として、工事施工ヤードの仮囲いの実施、排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械を使用することなどにより、さらに環境負荷の低減を図ります。

➤ 工事中の地下水位については、施工方法や工事内容に応じたモニタリング方法について関係機関等との協議を十分に行い、周辺の地下水利用状況も考慮した上で実施し結果について公表します。



➤ なお、工事の実施にあたっては、関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた工事計画とするとともに、地域の住民のみなさまに対しては、工事の内容、方法、期間などについて周知を徹底します。



参考: 工事中の環境への影響について

工事中に実施する主な環境保全措置

工事に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動、地下水などへの影響保全措置を実施します。

また、工事実施に伴う作業計画の作成にあたっては、各関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた計画とします。

工事中に実施する主な環境保全措置は以下のとおりです。

環境保全措置の内容	環境保全措置の効果
工事中の散水、タイヤ洗浄、施工ヤードに仮囲いの設置	工事中の散水、タイヤ洗浄、仮囲いの設置をすることによる粉じん等の発生又は拡散を低減します。
防音パネルの設置	工事敷地境界に防音パネルを設置し、騒音の影響を低減します。
排出ガス対策型、低騒音型、低振動型の建設機械の採用	二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
作業方法の改善	アイドリングストップの励行、高負荷運転の抑制等により二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
工事用車両の高速道路への誘導及び分散通行	工事用車両については、高速道路に直接乗り入れできるようにし、地域の一般道を極力利用しないことにより、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動の発生を低減します。
地下水流動保全工法の採用	工事実施時から地下水流動保全工法を実施し、地下水位の保全に努めます。
建設副産物の再資源化・再利用化	建設発生土は再利用に努め、建設汚泥についてもできる限り再利用し、それ以外は適正に処理・処分します。コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は再資源化を図ります。

アイドリングストップの励行



排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械の採用



タイヤ洗浄

